

海外派遣留学報告書
(報告期間：2019/09/04-2019/09/30)

1.勉学の状況

8月31日から **International Student Orientation** と **New Student Orientation** が始まった。説明会のような形式的なものではなく、新入生が学校に馴染み、友達を作るための様々なイベントが用意されていた。グループに分かれて **Downtown** に行き **Scavenger Hunt** をしたり、**Karaoke Night** や **Toga Night** に皆で踊ったり楽しいイベントばかりであった。この数日間であくさんの人に出会い充実した日々を過ごすことができた。

9月4日から授業が始まった。事前に **International Office** と連絡をとっていたため授業は確定していた。4つの授業のうち3つは **Lecture** (内一つは **Online Class** に変更された)、1つは少人数で **Discussion** の授業である。授業によって授業時間は異なり、週に1回3時間授業もあれば、週に3回50分授業もある。**Lecture** の授業では理解することができていて特に問題は無い。しかし、**Discussion** 形式の授業はかなり大変である。毎回の授業ごとに **Reading** の課題があり、その内容を元に **Discussion** をするといった形式である。この授業では気候変動が **Landscape** の形成にどう影響を及ぼすのか、科学や歴史、政治など様々な観点を踏まえて考える。課題がとても膨大で、90ページほどある書籍を毎週読まなければならない。自分の知識不足もあり何度読んでも分からない上、自分の意見をまとめなければならない。**Discussion** ではある程度発言しなければ **Attendance** がもらえないのだが、授業では周りがほとんどネイティブなので内容を理解することで精一杯であり参加できているという状態ではない。これから知識と英語力を高めて積極的に参加していきたいと思う。

2.生活の状況

<寮>

この大学の寮には3つのタイプがある。私は **Blanchard Hall** (一人部屋でキッチンとバスルームをとなりと共有するタイプ) を申し込んだが、応募者がたくさんいたため **Bernadine Hall** (部屋を2人で共有し、バスルームをとなりと共有するタイプ) になった。ここへ来る前は少し心配していたが、扉を開けていたら近くの子の人達が入ってきて皆で談笑するほど、とても **Social** な寮なのでここに入ることができてよかったと思う。ルームメイトが2日ほどで別の寮に移動してしまったが、新しいルームメイトもとても優しく、趣味も合うので安心した。互いに物音や行動に対して敏感ではないので、特に気を遣わず一人部屋のようにリラックスして過ごすことができています。寮全体が金曜日の夜と土曜日は **Party** でとても騒がしくなるが、日曜日は勉強をしなければいけないので静かになる。寮には1フロアに一つ **Study Room** が設けられていて、使う人はめったにいないので快適である。毎日そこに寮の友達たちと集まって勉強したり、話をしたり、映画をみたりしている。

<食事>

私の寮はキッチンがないので **Meal Plan** に申し込み、毎日学食を食べている。バイキング形式で朝7時から21時までには自由に行き来できるので、特に時間に縛られることなく行動できる。授業がかぶっておらず寮に住んでいない友達とはそこで会うことができる。食事は、毎日メニューが変わるので飽きずにおいしく食べることができている。

<休日>

この大学は **Downtown** までバス（学生は無料）で10分ほどで着くが、15分もあれば回りきれほど小さな町である。大学周辺はスーパーやファストフード店などしかなく **Attraction** がとても少ないため、勉強には最適な環境であると思う。休日も平日同様に勉強していることが多い。私はテニス部に所属しているため、毎週土曜日に3時間ほど練習をしている。テニスコートが学校にはないため、歩いて20分バスで5分ほどの場所のモールにあるコートを利用している。元ルームメイトも所属しているため、抵抗なく始めることができた。また、毎週末友達とジムに通っている。他には友達とショーや映画を見に行ったり、友達の家に行ってお互いの国の料理を作り合ったりして、勉強の合間を縫って **Attraction** が少ないながらも楽しく過ごしている。周りの人たちのおかげでここまで何も心配なく留学生活を送れていると思うので感謝したい。

海外派遣留学報告書
(報告期間：～12/13)

勉学の状況

10月中旬から下旬にかけて **mid-term** があり、11月で **Fall semester** の授業が終わり、12月が始まると同時にテスト期間に入り 2週間ほどでテストなど全てが終了した。あっという間だった。私は **mid-term** と **final** がそれぞれ 2つずつあった。それぞれテスト前は深夜 2時や 3時まで勉強することが普通であった。毎日友達と寮の **studyroom** に集まり、文句を言いながらも互いに感化し合いながら勉強していた。今までの授業の見直しをしたり、膨大なページ数の教科書を読んだり、かなり大変だったが何とかやり過ごすことができた。**mid-term** の結果がとても良かったのでその傲が出てしまい、結果はまだ出ていないが **Final** は手応えがあまりないのが心残りである。他の授業では、テストではなくプレゼンとファイナルプロジェクトで評価された。少人数授業の **climate change** についての授業では、プレゼンで自分の気になる気候変動に関する話題を取り上げ、ファイナルプロジェクトでどう扱うのかを 15分程度で発表した。プレゼンをすることに抵抗はなかったが、プレゼンを終えた後の皆からの質問やディスカッションタイムがとても心配だった。プレゼンをしたくなさすぎて最終授業に行くのをやめて単位を落とそうかとまで考えたが、冷静に留学に来た意味を考えてきちんと参加しプレゼンを行った。教授からは高評価をもらうことができ、ディスカッションタイムでは自分の意見は全て伝え、分からない部分は教えてもらうことができた。最後の授業にしてやっとディスカッションに参加できた気がした。今までずっとディスカッションの際に、自分の英語力や知識不足を理由に常に受け身の姿勢になってしまっていたが、実際はそこは大して問題ではなく、常に堂々としていることが大切だと分かった。知らないことは知らないと伝えたら皆親切に教えてくれて、また意見を伝える際には真剣に聞き尊重してくれるのでためらう必要はなかったのだと気づくことができた。かなり気づくのが遅かったが、次のセメスターで活かしたいと思う。

生活の状況

11月末頃から時々雪が降るようになりさらに寒く感じるようになった。テスト期間に入ると人によってはすぐに終わる人もいるので、寮が静かになっていった。生活面に関しては特に変化はない。勉強がない時は友達とひたすら話をしている。基本的にふざけた話しかしないが、たまに人種や歴史、将来のことなど真面目な話もするようになった。どんな話でも日本ではどうなのかとよく聞かれるので、分野を問わず自国のことを知っておくことは重要だと思う。また、将来の進路の話をしているとどれだけ自分の頭が固いのかに気づく。こっちは考えがとてもシンプルで、やりたいならやればいいしやりたくなければやらなければいいと言われる。いろんな生き方をしてきた人に出会って、普通に合わせる必要はないし、そもそも普通というのも何かよく分からない。そんなよく分からないものに縛られないで、もっと自由に柔軟に過ごしていきたいと思った。この数ヶ月間はあっという間に過ぎてしまったがとても多くのことを学ぶことができた濃い時間だったので、次のセメスターも楽しみである。UPEI での **Peaceful** な時間も良いが、東京での忙しい毎日少し恋しい気がする。とりあえず限られた時間を有効に使って楽しく過ごしたいと思う。

冬休みは基本的に家に帰る人が多い。私は友達とトロントで一週間ほど観光し、久しぶりに家族にニューヨークで会う予定である。

海外留学プログラム報告書

1. 勉学の状況

3月初旬からオンライン授業が始まった。授業自体は3月いっぱいまで終わるので、残りの3週間だけオンライン授業だった。オンラインへの切り替えが難しく、課題のみになったり、授業数が減ったりする授業もあった。ライブ授業がなかったため、3月下旬に帰国したが問題はなかった。学生同士のやりとりが極端に減ってしまい、ほとんどが個人タスクとなった。テストについては、オンラインテストになったり、レポートに変更されたりした。グループプロジェクトが一つだけあった。ZOOMを繋いでディスカッションをして、役割分担を決めた。私は当時帰国しており、カナダと日本は時差が12時間あるため、メンバーに時差を考慮してミーティングを設定してもらっていた。プロジェクトはプレゼン形式であったが、皆が集まらず困難であるという判断により、各自スライドに音声を吹き込む形となった。対面で会うよりもオンラインの方が発言するのが難しかった。相手の意図を汲み取るのが難しく、また皆が1人の発言だけに注目するので、自分の発言に対する責任が増した。しかし、最終的には上手くいき、教授からもお褒めの言葉をいただいた。また、良い文化だと感じたのが、課題提出が終わり教授からのフィードバックを受け取り全てが終了した際に、チャット上でお互いを褒め合い感謝を述べていた。困難な状況下でも皆が互いを思いやり、チームとして動いていたことに感動した。

2. 生活の状況

カナダでは新型コロナウイルスへの対応が非常に早く、私が滞在していた島では感染者が1人も出ていないのにも関わらず、3月初旬にはスーパー以外全ての店が閉まった。学食は、学校がしまっていたため寮に住む人しか利用せず、かなり利用者は少なかった。また、以前はビュッフェスタイルであったが全てスタッフの方が用意してくれ、食事の際も間隔を空けて食べるため席数が減らされていた。スーパーでは、トイレトペーパーが全てなくなっており、皆が混乱していることが窺えた。基本的に寮で友達たちとのんびり過ごしていた。寮に住んでいない友達のうち特に仲が良かった人には、寮に遊びに来てもらい最後に会うことはできたが、お世話になった全員に挨拶をすることはできなかったのが残念である。日本に帰ってから、友達とチャットなどで頻繁に連絡を取れているので、また会いに行ける日が来ることを願っている。家族や友達、教授、留学生課の方々のおかげで特に大きな問題なく、留学生活を送ることができたため、非常に感謝している。これからも留学先でいくつもの困難を乗り越えた経験を糧に、何事にも積極的に、そして周りへの感謝を忘れずに取り組んでいきたい。